

# 下弓削川、金丸川・池町川流域水害対策協議会(第1回協議会)

## 議事概要

日 時 令和8年6月1日(月)13時00分～13時30分

場 所 久留米総合庁舎 立体駐車場棟 1階 大会議室(WEB 会議併用)

出席者

役 職	氏 名	備 考
国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所長	塚原 隆夫	
福岡県 県土整備部 河川管理課 課長技術補佐	神崎 孝二	河川管理課長 代理出席
福岡県 県土整備部 河川整備課長	佐々木 大介	
福岡県 県土整備部 久留米県土整備事務所長	平井 信之	
久留米市 副市長	牧野 浩志	
久留米市 企業局 上下水道部長	境 克浩	企業管理者 代理出席
九州大学 名誉教授	小松 利光	
九州大学大学院 教授	矢野 真一郎	WEB 出席

### 《概 要》

#### ■ 流域水害対策計画の策定について

- ・ 事務局より【資料1】の内容について説明。
- ・ 意見なし。

#### ■ 流域水害対策協議会 規約(案)について

- ・ 事務局より【資料2】の内容について説明。
- ・ 意見なしのため、本日付で本協議会の規約を正式な規約とする。  
(令和8年6月1日付け施行)

#### ■ 今後のスケジュール(案)について

- ・ 事務局より【資料3】の内容について説明。
- ・ 意見なし。

## ■ 計画対象降雨(目標降雨)の設定について

- ・事務局より【資料4】【資料5】【資料6】の内容について説明。
- ・主な質問・意見は以下のとおり。

(九州大学 小松教授)

- ・目標降雨量は、24 時間や 48 時間等といった総雨量で考えているのか。

(事務局)

- ・今回の検討では、内水時間帯で考えており、筑後川の水門が閉鎖している間に降った雨量を対象としている。具体的には、下弓削川が 20 時間、金丸川・池町川が 39 時間である。

(久留米市 牧野副市長)

- ・令和 1～令和 6 年の雨を反映すると総合内水対策計画より目標降雨が増大するのは、近年の雨の降り方をしっかり表現できており、久留米市としては問題ないと考えている。

(九州大学 小松教授)

- ・筑後川の中下流域では、地球温暖化による海水温上昇で水蒸気の供給が増え、流域の形状、耳納山地の地形の影響等により大雨が発生しやすい。

近年の研究では筑後川中下流域において 24 時間年最大雨量が約 1.6 倍に増加することが示唆されているが、それにあわせて計画対象降雨を高く設定すると対策が追いつかなくなり、実現性が低い計画となる。

今回設定した計画対象降雨の基準となる雨量データは、既に温暖化の影響を受けたものとなっているため、当面の目標としては 1.3 倍が妥当であると考えます。ただし更なる温暖化進行により、将来的には不十分となる可能性はある。

(九州大学大学院 矢野教授)

- ・非常に大きな目標降雨となるため、十分な対策がとれるのか、どの程度見込みがあるのかは少し懸念している。

(事務局)

- ・具体の対策は、今後、幹事会等を通して検討を進めていく。その中で計画目標を浸水解消あるいは浸水軽減とする等、色々なパターンを試しながら、関係者全体で決定していきたい。

(九州大学 小松教授)

- ・気候変動による災害リスクは全国的に深刻化しているが、筑後川流域は地理的・地形的要因もあって特に雨が大きくなる傾向にあり、気候変動をふまえた水害対策は容易ではないということを、まず十分認識する必要がある。

また、そのような状況下で本川水位が高いと排水機場の運転調整を行う必要もあり、筑後川本川の水位を上げないようにすることも重要である。



会場の様子



佐々木課長 挨拶



久留米市 牧野副市長



九州大学 小松名誉教授



九州大学大学院 矢野教授